

中国考古学からみた匈奴土城

向井佑介（京都大学人文科学研究所）

はじめに

モンゴル高原では匈奴時代に方形の土城（ドゥルヴルジン）が多く築造されたことが知られる。本コメントでは、匈奴土城に対する先行研究の整理（木山ほか 2022, 白石 2022）を参考にしながら、漢代の土城との形態・構造・技術の比較を試みる。漢代の土城は、内部の建築構造・配置などが明確な例はほとんどないものの、近年発掘された新疆奇台県の石城子遺址の工法には、匈奴土城との一定の共通性が認められる。

1. 土城の形態と規模

匈奴土城の規模は一辺の長さが 100m 以上、大きいものは一辺が 400m あまりで、正方形に近い。土城内に 1 基ないし数基の建物基壇が築かれる（図 1）。瓦の報告例も多く、内部の建物に瓦が使用されていたと考えられるもの、囲壁から瓦が出土するもの、内部からは瓦が出土せず囲壁外の建物に瓦が使用されたと考えられるもの、などがある。

中国北方の漢代県城クラスの土城には、一辺 500m 以下のものから 1000m を超えるものまで、規模はさまざまである。方形を指向するものの、地形等の制約により平面形も多様（図 2）。

安陶県城（【11】内蒙古フフホト美岱古城）：外城は周長 1800m、内城は周長 1280m

成楽県城（【16】ホリソール土城子古城）：南城は南北 535m、東西 505m が残存

平城県城（【77】山西省大同）：一辺約 980m

繁峙県城（応県東張寨遺跡）：約 1120×720m

2. 築造の技術・工法の問題

匈奴の土城には漢の技術が用いられていたことが従来から指摘されている。瓦の製作と使用はいうまでもなく、版築の工法、漢の尺度の使用（白石 2022：106 頁）などがあげられる。ただし、瓦製作や版築は、漢の技術を使用しながらも、粗雑な部分がある。

近年のモンゴルと中国の発掘により、基壇壁面への白灰（漆喰）の塗布、礎石の据え付け、柱の立て方などがわかってきたことにより、漢の技術と対比できるようになってきた。漢の地方城郭は城門や建物址の発掘例が少ないものの、天山北麓の新疆奇台县石城子遺址（新疆文物考古研究所 2020・2022, 田 2021, 報告者は後漢の疏勒城とする）とは柱の据え方などに共通性がある（図 4）。

3. 方形の祭祀建築

タリン・ゴルヴァン・ヘレム（和日門塔拉城址, 吉林大学考古学院ほか 2020）II 号城址の中央基壇 II A や小型基壇 II B は、柱列のみで木造建築の存在は確認できないとはいえ、基壇が完全なる正方形で、前者は二段の正方形を重ねた壇状建築をなし、基壇側面に白灰（漆喰）を塗った等級の高い施設であることが注意される（図 3）。

漢陽陵の陵廟と考えられる羅經石遺址（李 2002）、王莽九廟をはじめとする長安城南郊の礼制建築群（中国社会科学院考古研究所 2003）、秦代祭祀建築と報告された甘肅省礼県四角坪遺址（侯 2021）などは、いずれも方形中央建築の周囲に正方形の囲牆をめぐるせ、四面中央に門を配する（図 5）。祭祀建築に正方形プランを多用するのは秦漢時代の建築の特徴であり、それが匈奴の祭祀建築に一定の影響をあたえた可能性はある。

4. まとめ

匈奴土城に漢の技術が用いられていることは、先行研究の指摘するとおりである。個別の技術をみれば、漢の辺疆の城郭と近似する技術が用いられる部分があるものの、比較可能な資料はまだ少ない。一方、匈奴土城のなかでも単于が関与した可能性のある等級の高い施設については、漢王朝の国家的な宮殿・祭祀施設との比較を含めて、検討を進めていく必要がある。

引用文献

- 上野祥史編 2008『漢代北方境界領域における地域動態の研究』平成 17～19 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究成果報告書
- 木山克彦・中村大介ほか 2022「モンゴル国における匈奴とウイグルの城址」『埼玉大学紀要 (教養学部)』第 58 巻第 1 号
- 吉林大学考古学院・内蒙古自治区文物考古研究所ほか 2020「蒙古国后杭愛省烏貴諾爾蘇木和日門塔拉城址発掘簡報」『考古』2020 年第 5 期
- 侯紅偉 2021「甘肃礼県四角坪遺址」『2020 中国重要考古発現』文物出版社
- 白石典之 2022『モンゴル考古学概説』同成社
- 新疆文物考古研究所 2020「新疆奇台县石城子遺址 2018 年発掘簡報」『考古』2020 年第 12 期
- 新疆文物考古研究所 2022「新疆奇台县石城子遺址 2019 年の発掘」『考古』2022 年第 8 期
- 新疆維吾爾自治区文物考古研究所 2022『新疆石城子遺址 (一)』科学出版社
- 中国社会科学院考古研究所 2003『西漢礼制建築遺址』文物出版社
- 田小紅 2021「新疆奇台县石城子遺址考古発掘及收穫」『文物天地』2021 年第 7 期
- 李零 2002「説漢陽陵“羅經石”遺址的建築設計」『考古与文物』2002 年第 6 期

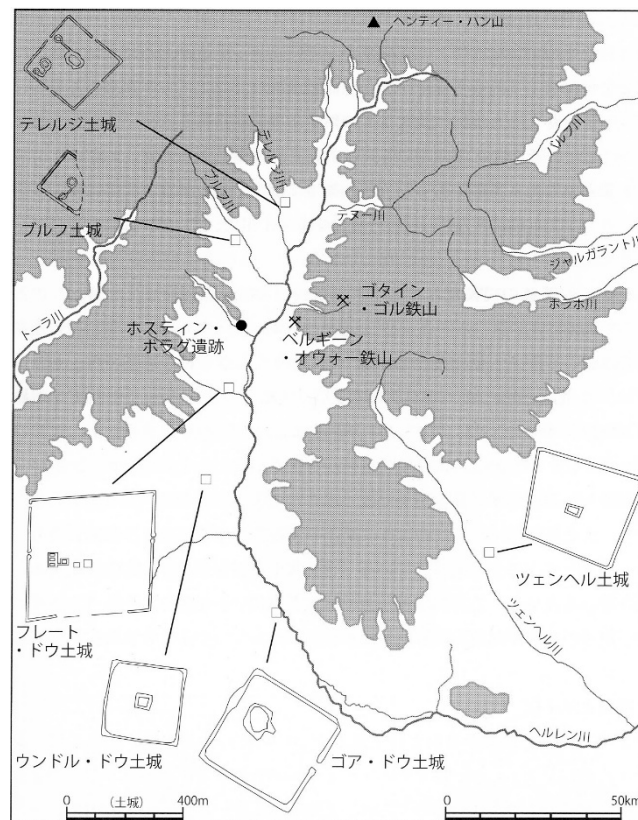


図 1 ヘルレン川上流域の匈奴土城 (白石 2022 : 図 55)



ホリンゴール土城子古城



平城县城（山西大同）



繁峙县城（応県東張寨）

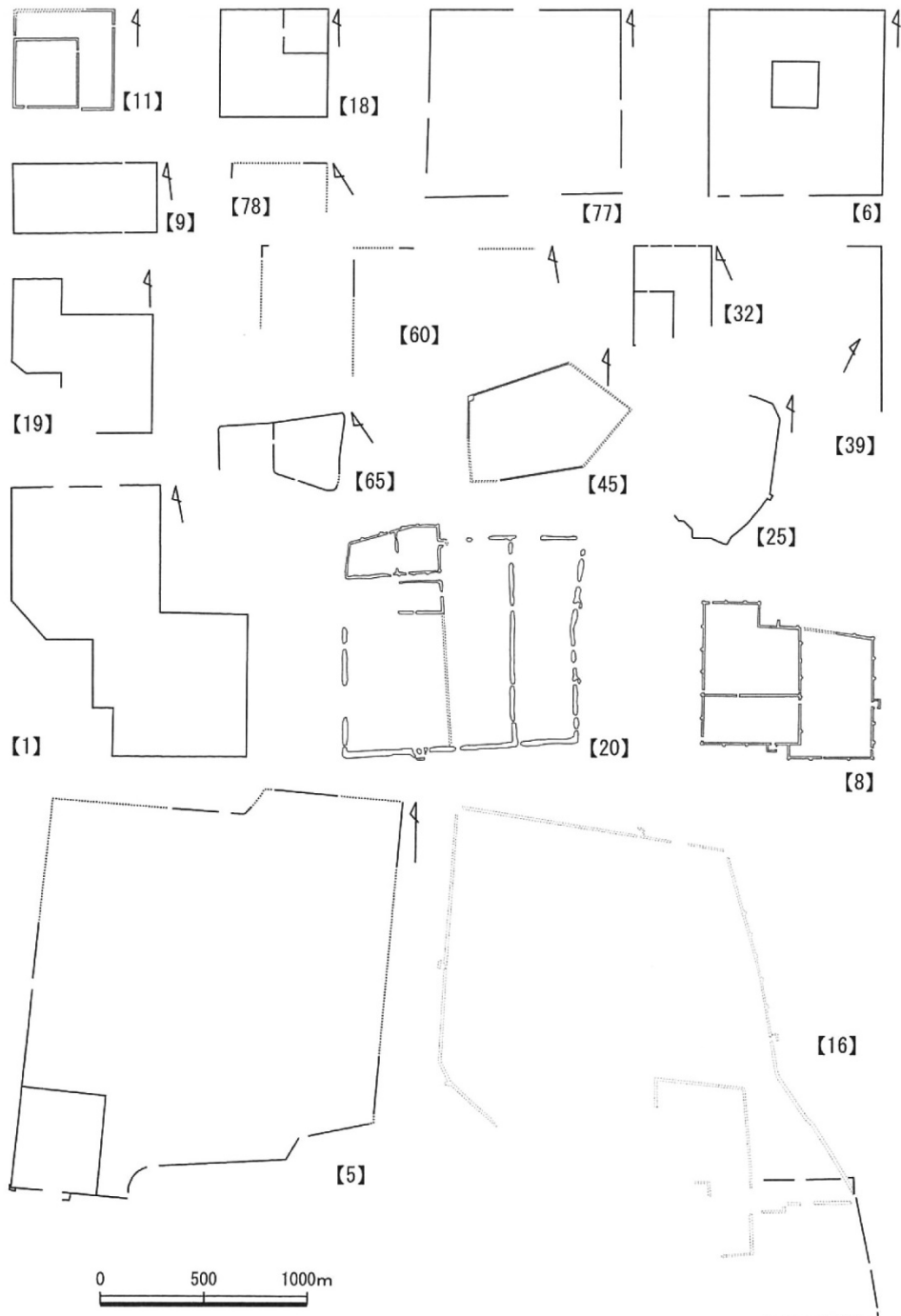
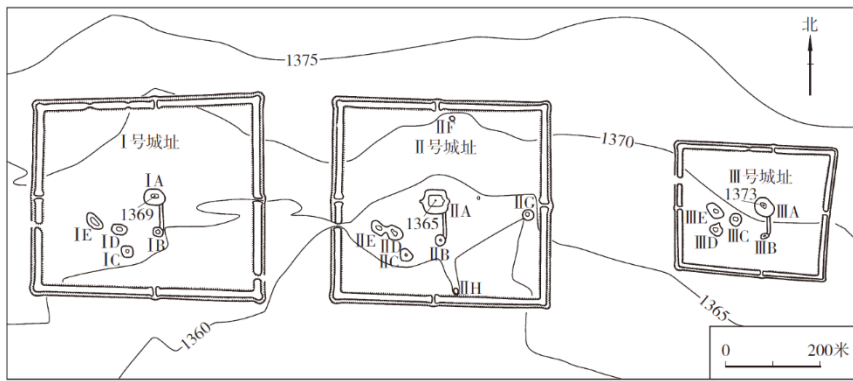
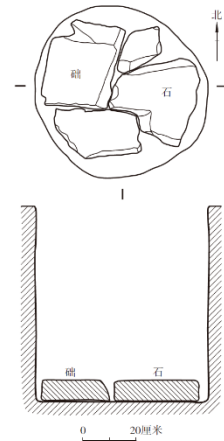


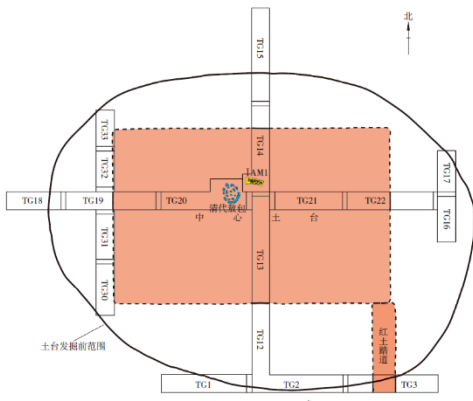
図2 中国北方の漢代土城（上野 2008 : 37 頁、上の写真は向井撮影）



图二 和日门塔拉城址地形及平面图



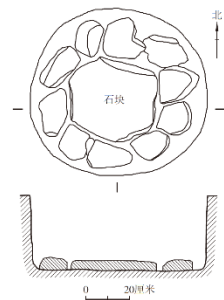
图二〇 东门址大柱洞D1平、剖面图



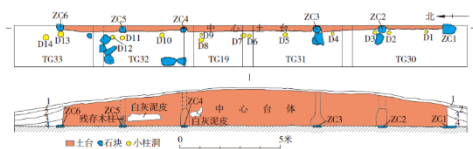
图五 中心土台 I A平面图



图四 TG21北壁剖面(东南→西北)



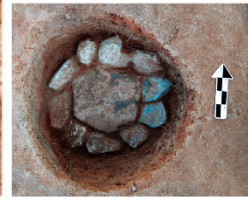
图二九 中心土台 II A柱洞D49平、剖面图



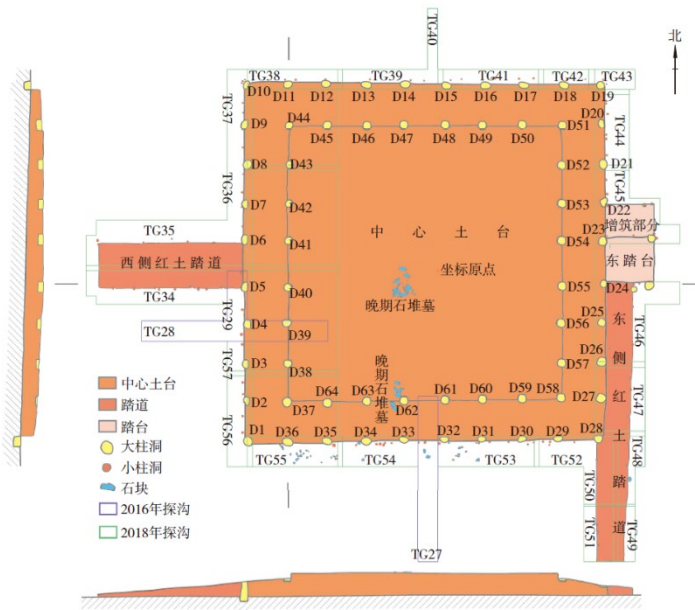
图六 中心土台 I A西侧TG19、30-33平、剖面图



图一〇 中心土台 I A西壁表面的白灰泥皮局部



图三〇 中心土台 II A柱洞D49(上为北)

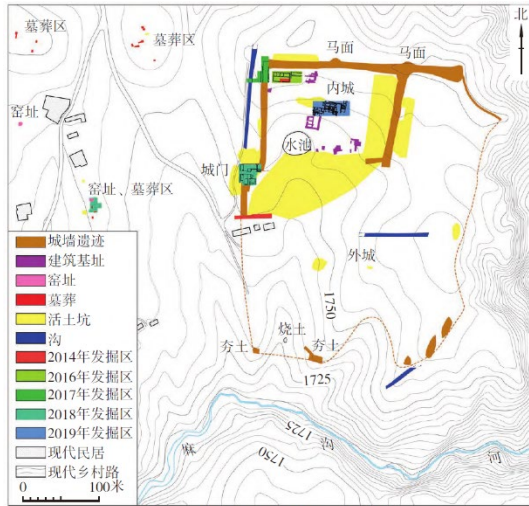


图二四 中心土台 II A平、剖面图
D1-64. 柱洞



图三八 小土台 II B(上为北)

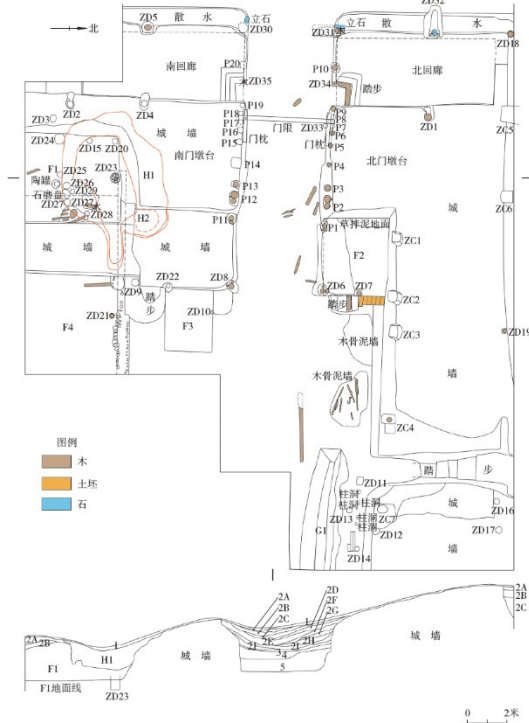
图3 塔林·戈尔ヴァ·赫雷姆 和日门塔拉城址 (吉林大学考古学院ほか2020)



图二 遗址地形及历年发掘区位置图

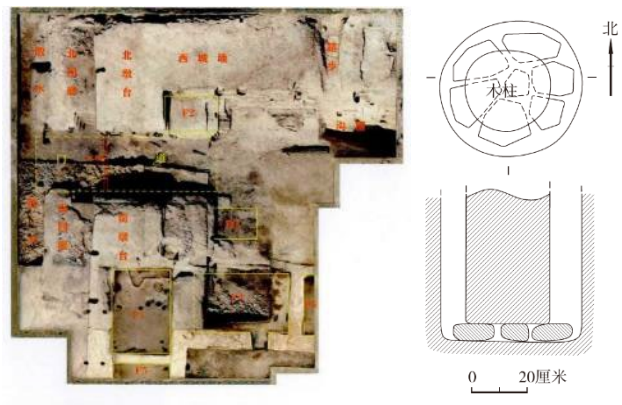


图九 门限及门框(南→北)



图四 发掘区平、剖面图

1.黑褐色表土 2A-2J.黄褐色坍塌土与黑褐色自然淤积土 3.灰褐色上层建筑坍塌堆积 4.灰黄色垫土 5.浅褐色下层建筑坍塌堆积



图一七 ZD23平、剖面图

城门发掘区(自南向北)



遗址(自南向北)

图4 新疆奇台县石城子遗址(新疆文物考古研究所 2020·2022, 田 2021)

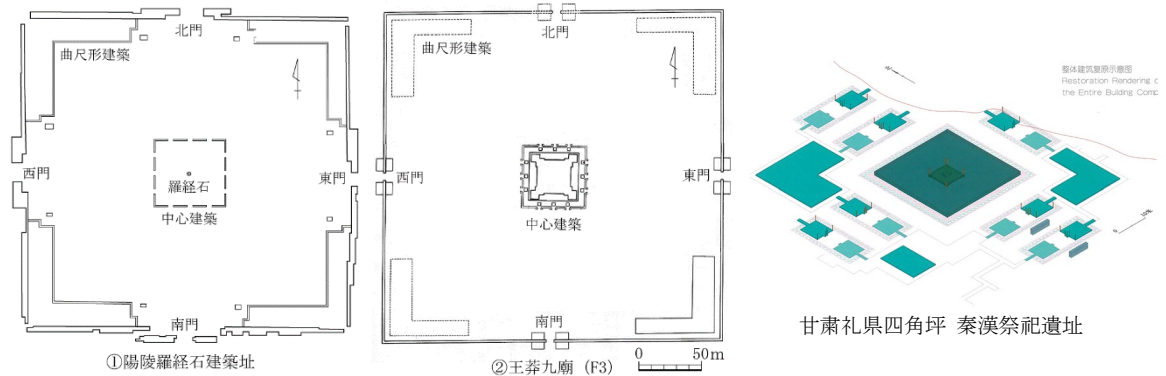


图5 秦漢時代的方形祭祀建築(李 2002, 中国社会科学院考古研究所 2003, 侯 2021)